

日本フンボルト協会 2024年度第4回常務理事会 議事録

日時：2025年3月8日（土）14時から17時
形態：オンライン会議

伏木 信次理事長、縣 公一郎副理事長、高山 佳奈子副理事長（関西支部長）、井田 良守矢健一、岡林 洋、坂越正樹、須田 利美、高橋 宗五、高橋 義人、種村真幸、武内謙治、鏝田 武志、和田 肇、山本敬三、櫻田嘉章、広渡清吾、事務局 関映子

議題：（1）2025年度総会について

総会・講演会は 2025年6月14日（土）京都大学にて開催
京都大学本部キャンパス 法経済学部本館（時計台の北隣の建物）
1階西端「法経第十一教室」

講演者は吉田直紀会員（2024年度のシーボルト賞受賞者）
東京大学理学研究科カブリ数物連携宇宙研究機構、宇宙物理学における世界有数の研究者の一人。題目は「宇宙の夜明け」

（予定されるプログラム）

13：15－13：50	常務理事会、理事会合同協議
14：00－14：50	会員総会事務協議
15：00－16：00	講演会
16：30－18：00	懇親会 (大学のそばのカフェで立食 Party の予定)

（2）ドイツ研究留学説明会開催について（鏝田先生より）

日時：2025年3月30日（日）14:30-19:00

～～全体説明会 14:30-15:50

1. DAAD 奨学金（博士向け研究奨学金）についての説明(14:30-14:50)
2. フンボルト奨学金およびフォローアッププログラムについての説明（14:50-15:30）
3. ドイツでの研究の進め方や研究環境についての説明(15:30-15:50)
⇒高垣堅太郎会員が長いアメリカ留学経験とドイツ留学経験から経験談をご講演。

～～専門別分科会 16:00-18:00

現在留学中の奨学生や留学経験者と交流、情報交換を行います
博士研究員としての留学（フンボルト）：人文科学、社会科学、理工学、生命科学、医学の5つ分科会に分かれます。博士課程大学院生としての留学（DAAD）：専門別には分かれず1つの分科会を行う。

～～子育て家族分科会 18:00-19:00

ドイツ留学の際の子育てについての情報提供／交換を行う「子育て家族分科会」を開催。
主に女性が仕事をする場合の情報提供を行う。

⇒（高山先生）女性研究者が留学する場合をフォーカスしている。多くの女性研究者にフンボルト奨学金に応募してもらいたいというフンボルト財団の意向も組み入れている。去年は10数名の参加。
フンボルト財団はシングルファーザーの支援も考えは始めている。

⇒（鏝田先生から）去年は150名ほどの登録であったが今年は90名の事前申し込み。
開催情報の周知をさらに願いたい。
10年前はフンボルト奨学金応募者が50名ほどで合格者が20数名
現在は応募者が少なくなり、合格者はひとけたどまり。
ドイツと日本の学術交流が希薄になる恐れがある。

(質問) フンボルト合格者の減少はフンボルト財団が、日本人を採択しないということではないのか?

(罫田先生) 日本人の合格者数の減少は応募者が少なくなっているからであり、採択率は低くなっているわけではない。

(4) 2025年度の改選について (資料 ②)

⇒関西と関東の会員数による理事の数のバランス是正を考慮した。

⇒若手会員と女性会員の理事の就任を、各支部に検討してもらった。

(5) 各支部より報告 (各支部長)

(関東支甲信越支部) 井田先生より

⇒2024年10月26日に中央大学で小規模の留学説明会を開催した。

関係者を含めて、42名の参加があり、盛況であった

○総会開催 予定

日時：2025年3月22日(土)

14時から17時半 事務協議、講演会、懇親会

講演会 テーマ：「日本の食糧問題について」

講演者：小嶋大造会員(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

ご専門：農業政策、財政政策

*講演会に関してはハイブリッド方式なので他の支部にも案内して参加を呼び掛ける。

(関西支部) (高山先生より)

○総会・講演会開催予定。

2025年3月16日(日) 14:00~16:30

場所：キャンパスプラザ京都 2階「第1会議室」

講演会：守矢健一会員「比較法的考察を日独の二国に限定して行うことは時代遅れか？」

*講演会に関してはハイブリッド方式なので他の支部にも案内して参加を呼び掛けている。

(北海道支部) (居城先生が欠席のため、以下のメッセージが届いている)

2024年6月13日(木)に北海道大学総合博物館においてドイツ留学説明会を対面形式で開催しました。参加者は30名でした。続けて、北海道支部総会を開催し、2023年度の活動報告と今後の活動内容について討議しました。

2025年3月30日(日)開催予定のドイツ研究留学説明会を広報するために、広告ポスターを印刷して、支部会員に配布を依頼するとともに、北海道大学内の各部局に掲示を依頼しました。またメールによる広報も依頼しました。

(東北支部) (須田先生)

⇒2025年度は総会を開催予定。3月30日のフンボルトドイツ研究留学説明会については留学課に依頼したので全学内にアナウンスされた。

(中部支部) (和田先生)

⇒今年の1月11日に総会と記念講演会を開催した。

講演者：杉山直先生(名古屋大学学長)により「光の宇宙と暗黒の宇宙」という講演が行われた。

YouTubeに掲載済。https://youtu.be/z-xBB1Yy_3Q

(中四国支部) (坂越先生)

⇒2024年11月24日に講演会を開催した。

講演者：マルテ・ブリンクマン(Malte Brinkmann)

(ドイツ・フンボルト大学；ドイツ教育学会教育哲学委員会代表)

演題：「練習の教育哲学(Pädagogische Philosophie des Übens)」

指定討論者：今井 康雄先生(東京大学名誉教授・教育学会会員・日本フンボルト協会会員)

*次年度より ト部 匡司会員が支部長に就任。

(九州支部) (武内先生)

⇒ 2月18日に現地参加で総会を開催した。DAAD 元奨学生の平尾遼海さんに講演をお願いした。

(6) その他

○シーボルト賞の件 賞金額が本年度より 80,000 ユーロになった。
3月5日に大使館で選考会が開催された。

⇒ 結果は未公表だが、近日中に大使館の HP に掲載。

○HP の件 (種村先生から)

* 2012 年に獲得した Alumni Award 25,000 ユーロをほぼ使い果たした。

* 現在の残金 9,756 円

* HP 管理費 45,000 円が毎年かかるのでそれを、今後は会計に計上していく必要がある。

* 現在、以下の請求書 26,950 円が届いているので、今回は予備費から支出するが、今後の支払いについては検討する。

≪オンミックスからの連絡≫

サーバの更新と SSL 証明書 (2025-04-07) の更新が近づいてまいりました。

更新の手続きをすすめたいと思います。

【振込金額】 26,950 円 【振込先口座名義】 ネットオウル (カ)

(サーバ利用料プレミアムプラン(旧クローバー) : 19,800 円 SSL 証明書 (年) : 1650 円

固定 IP オプション (年) : 5500 円)

⇒ (鏑田先生) HP 構築から 13 年になる。当初の構想と必要性が違ってきている。

構造が分かりにくくなっているのでリニューアルの必要がある。

検索支援サイトをアップデートする必要がある。HP の方向性を出していくべき。

(種村先生) HP のリニューアルに関して、1 昨年末にマイナーチェンジをしている。

費用は 88,000 円であった。現在は HP のリニューアルに関してオンミックスに予算を聞いている。検索システムを今後どうしていくかと考えていく。

ユーザの意見と専門性が要求される。

(伏木理事長) 検討委員会を作り時間をかけて検討していくべきではないか？

(広渡先生) Alumni Award の申請にあたり、その目玉として情報検索を挙げた。

財団のほうに HP 資金を援助するシステムがないかどうか、問い合わせるべき。

応募するアイデアを整理して可能かどうかを検討するべき。

Alumni Award 申請の際には何かありませんかと聞かれて、ちょうど検索サイトのことを議論していたので応募した。もう一度、新しく立ち上げ、HP の次の段階に入りたいので支援できるかどうか、フンボルト財団本部に聞いてみたらどうか。

(伏木理事長) 助成事業があるかどうか。検討委員会を種村先生を中心に人選してもらう。

(鏑田先生) プランを作成して提示してからお願いすべき。プランニングが必要。

(縣先生) 一般論として聞くべき、全般論として聞く。現在の HP の進展版であることを強調しアルムニに対する助成があるかどうかの問いかけをするのはどうか。

(守矢先生) フンボルトの HP で見ると現在の Alumni Award は国際的なネットワークづくりなどのためのもので、十分な準備が必要のよううかがえる。

(広渡先生) 東アジアグローバルネットワークの構想があった。いろんな構想の可能性はある。

(3) 2024 年度の会計収支について (資料参照①) (高橋先生から報告)

年会費の件 1354 人の会員登録のうち、支払い済が 460 名、

残りの 850 名ほどは未納です (名誉会員 20 名もいます)。

○一度も支払っていない人

○2013 年の東西合同から支払っていない人

○2023 年までは支払っている人など 様々です。

(会計収支について) (高橋先生)

⇒ 収入の項目にある借入金については、今年度内に返済する予定であったが、来年度も同じように借入金が必要となってくるので返済はしないことにする。

(高橋先生) 借入金の項目への記載はどうか？

(伏木理事長) 移管という記載にする。メモに「財政安定化基金より移管」と入れる。

(高橋先生)

現在の財政状態の改善をどうするか？

* 年会費の未払い者数をみて、一度も支払っていない人をどのように取り扱っていくか？

* デジタル化することで、郵送を減らしていく。

* 案内状を郵送するのを避ける、しかし郵便でしか届かない人

(メールアドレスのない人、メールアドレスが古くなっている人) が 200 名以上いる。

* メールアドレスのない人には今後郵送ができないという通知の必要がある。

(伏木) * 年会費を増やす方策がないのか。支部活動を活発にさせていただき、一番近いところで活動できる機会を増やしていくべき、それが効果的ではないか。

* 長期未納者には郵送は出さない。

(縣先生) デジタルに移行するにはあと 1, 2 回は郵送を並行して行い、ある時点からデジタルになりますという予告をした上で、デジタルに移行していくべき。

(事務局) メールアドレスのない人が (戻ってくる人を含めて) 200 人ほどいるので、一度郵送して、全会員のデータの確認をしたい。

(縣先生) 次のステップからはっきりさせる。少なくとも Paper では送らない。

次の時に勧告、宣言をするために二つのルートをとる。

(伏木先生) それに対する反応にもよる。

(縣先生) 通信ルートはメールだけですと伝える。

そうなると会費徴収はどうか。登録情報の確認も必要となってくる。

○日独共同研究奨学金 現在応募がゼロ。近年の不合格であった応募者に応募を勧めた。DAAD からも応募の希望がある (その場合の条件は? 改定案を検討する?)

⇒ 現在、Humboldtianer の昨年 of 不合格者 (理系) の応募が一件ある。
⇒ (その後、締め切りまでに合計 5 件の応募を受け付けた)

○伊藤・荒川基金について (縣先生から)

【伊藤・荒川基金 助成金】 (資料 ③)

⇒ 昨年 2024 年 8 月末には松本先生、伏木先生、縣先生、。高山先生が荒川さんを訪ねて初回の協議を行った。

— 2 月 21 日には松本洋一郎先生、縣先生、事務局関映子が荒川雄行さんを訪問して協議した。

* 両奨学金の審査体制について (資料 ④)

日独共同研究奨学金と合わせて従来の 12 人体制を、6 人体制に二分割する件

《日独共同研究奨学金についてのご意見》

⇒ 日独共同研究奨学金のことを聞き知った DAAD 元奨学生で古生物学研究者が応募を希望している。

その場合、応募者の資格として規定を変える必要が出てくる。

(鏑田先生) 規定を緩めるのか？

趣旨としてフンボルト協会の研究活動を盛んにしたいのか？

ドイツの若手研究者が来日して研究することをサポートしたいのか？

(縣先生) ドイツ人研究者を招待し、日独交流を盛んにするのが目的。

(鰐田先生) 若手研究者を招へいするのか？ 日本人がドイツに行ってサポートするのか？
共同研究でドイツ人をサポートするのか？
ドイツ人の共同研究を振興する、ドイツ人を日本に招聘するために助成するのが趣旨
しかしその母体は Humboldtianer であるべき。

(高山先生) 友の会の応募希望者は情報を知りえたが、他の友の会の会員には不公平感が残る。

(伏木理事長) 応募も少ないので緊急避難的に考えることもありうる。

(縣先生) 締め切りを延長してでも、友の会会員に知らせたほうがいいのか？

(広渡先生) 近い分野の人を探す

(高山先生) 原田英美子先生に聞いてみる。現在の一人だけの応募となった場合は競争原理が立たない。

(守矢先生) D A A D の応募者が出た場合、責任はとれるか？

古生物学より大きな分野で探し出すこともできる。

応募者が少なくなってきたので今後は検討すべき。

まず Humboldtianer に応募を宣伝すべき。スタートアップとして設定したので

元奨学生がかかわるときに副作用が大きすぎる (?)

(高山先生) 原田先生に問い合わせしてみる。

(守矢先生) 引き受けるひとがいるかどうか、形式性が確保されているかどうかやってみる。

(縣先生) 応募者が少なかったら締め切りを4月末までに延長する

○伊藤・荒川基金について (縣先生から)

⇒フンボルト奨学生として新たに選ばれた人に奨学金を出したいという伊藤先生の遺志が確認できた。

(鰐田先生) 採択者が毎年4人という少ない中で、2年の中で有効な審査ができるのか。

(縣先生) 当初はこれから応募する人の支援をするとの考えがあったが、伊藤先生のご遺志はその構想ではないことがわかり、フンボルト合格者が対象になった。当面これで行くが、2, 3年後には対象を考え直すこともありうる。

出発点は現在留学中の人に限らず、帰国した人も対象とする。スタートはこれで進める。
学会に出るために使用するとか。

(高橋先生) ネットワークを構築するといっても、留学中は忙しくて、それどころではない。

50万円をどう使うのか？

(縣先生) 移動してもらって共同研究者を探してもらい、ネットワークを築いてもらうための奨学金。

(広渡先生) フンボルト奨学金が足りないのこのようなことを考えたのかとフンボルト財団側に思われることになりかねない。客観的にみて不足していると言っているようなもの。もらうのはありがたいはず。

(縣先生) 松本先生のご意見としては、フンボルト奨学生は立場は確保されているが余裕をもってこの基金を受け取り共同研究の幅を広げることをより強力に支援するべきとお考え。

応募者が減っている、在外研究者が減っているのをそれを後押しする意味合いがある。

フンボルトに応募しようとしている人への支援する助成金にしたいという意見もあった。

(高橋先生) 在外研究の方法は分野にもよるがネットワークを考えている暇はない。

ネットワークの構築のために行っているわけではない。

帰ってきてからはネットワークの構築が必要となってくる。

2年以内ではなく、帰国してから使える資金が必要。ドイツではフンボルト財団が支援してくれる。

帰国してから5年以内として、留学後に使ってもいいこととするのはどうか。

伊藤・荒川基金のネーミングですが、アルファベットでは「荒川—伊藤基金」とすべきところである。
どこかにその理由を書いておくべき。(故)伊藤先生のご遺志であることを書いておくべき。

(縣先生) 現時点で2年を5年にして、幅広く支給するのが補完的
運営上問題がないので、5年とする。要綱を書き換える。

審査体制は

二つのグループの委員会に分けた 審査体制は踏襲して両方に適応する
二つの委員会として、新たに就任をお願いする。新しい要綱を送る

⇒就任をお願いしている。ほとんどのかたから承諾を得ている。

○フンボルト財団の新奨学金について（縣先生から）

Henriette Herz Scouting Programm というプログラムが数年前からできていた。

まずテーマが決まる

⇒そこに教授が応募してくる（人文社会 6 人、生命科学 3 人、理学 9 人、法学が 2 人応募している）

⇒その教授の名前が出たら、自分が研究をしたい教授に若手研究者から応募する。

3 人以上が応募したら成立する。すでに日本人女性研究者が一人採択されている。

応募できるのは Junior Professor である。

*フンボルト協会の HP に追加すべきか？もう少し詳細な情報を得たい、合格者に問わせてみる。

○ 次回の AI シンポジウムについて（高山先生から）

⇒西川先生と相談して AI シンポジウムをもう少し続けてもいいとの意見をいただいているので進めていく。

【日時は未定】

1. AI と著作権

狩野 芳伸 氏（静岡大学、情報学）「自然言語処理の可能性と課題」

潮海 久雄 会員（筑波大学、知的財産法）「AI とフェアユース」

2. AI と文化財

高野 紗奈江 氏（京都大学、考古学）「AI を使った土器の解析」

河野 俊行 会員（九州大学、国際関係法）または

高山 佳奈子 会員（京都大学、刑事法）「文化財の国際的保護」

○ アレクサンダー・フォン・フンボルト財団主催

Humboldt-Kolleg 2025 イメージ学シンポジウムが開催される

坂本泰宏 会員が Organisator

開催日時：2025 年 5 月 9 日（金）午後～11 日（日）

予定会場：慶應義塾大学三田キャンパス

フンボルト財団日本担当の Frau Lieblang が 来日予定

⇒理事数名で食事会を開催予定。日程を調整中。

○ *次回の常務理事会の日程について

⇒ 6 月 14 日の 2025 年度総会前に、常務理事会と理事会の合同会議として開催する。

(以上)